

## ■高倉 健 特集 (2作品)

・高倉 健の三回忌を偲び、高倉 健が主演した代表作品を上映します！

### ◎網走番外地 悪への挑戦 (90分/1967年/日本/東映)

\*エコーホール【11/26】9:10 【11/27】9:10

ゲスト:助監督(当時)・内藤 誠 プロデューサー・瀬戸恒雄 ほか



#### ◎監督・脚本:石井輝男

出演:高倉 健 嵐寛寿郎 田中邦衛 小林稔侍 三原葉子 前田 吟 谷 隼人 ほか

◎火を吹く大阿蘇! 血を吹く“博多山笠”男祭り! 網走野郎・高倉健がドスと喧嘩で男の怒りを爆発させる! 鬼寅の招きで九州にやってきた橋真一。博多港についた途端、3人のチンピラ少年が猟銃をぶっ放して警官隊を手こずらせている。橋は危険を承知で少年たちを取り押さえた。

橋真一は流れ者の気軽さから、誘われるまま鬼寅のいる九州に来たが、博多港に着いた時、猟銃を手に警官隊を手こずらせているイキがった少年たちを取り押さえた。そのため、不良少年たちの憧れのまよになって橋は苦り切ったが、鬼寅が病気で倒れた友人に代って不良少年保護施設で働いていることが分ると、その仕事を手伝うことになった。ある日かつて暴力団門馬組の手先だった武が施設を脱け出し、故郷の若松に向った。後を追った橋は、武の家で母に重労働を押しつけ昼間から酒を浴びる義父に怒りをたたきつける武を見て、かつての自分を思い出すのだった。同じ生いたちから共感しあった橋と武は義兄弟の契りを結び、堅気になってしっかり生きていこうと約束した。鬼寅の世話で、武は人形工場に就職した。しかし、ライバルの港組組長を亡き者にしようとする門馬組は、武にその殺しをやらせようと、誘い出したのだ。武はそれを拒み、凄惨なリンチを受けた。その頃、施設の不良少年一郎は、門馬組の川上と計って、施設に働く春子を犯した。春子は絶望して阿蘇山に向い、火口に身を投げようとしたが駆けつけた橋に救われた。やがて始まった博多祇園祭の夜、門馬組の客人衆木は、組の汚ないヤリ口に怒って武を助けようとしたが門馬に射殺され、また一郎が港組組長を襲って逆にとり押さえられた。事のすべてを知った橋は、急いで門馬組に駆けつけ瀕死の武を発見した。堅気となる約束を守った武は橋の腕に抱かれて死んでいった。怒った橋は、白鞘の長脇差を抜くと、山笠祭りのまっただ中で門馬を斬った。このニュースが施設に伝わると、少年たちは橋を英雄のように賞めた。心を曇らせた鬼寅は、自首した橋に醜態を演じてくれと頼んだ。橋は手錠をかけられると、「助けてくれ、つかまるのは厭だ!」と喚きながら、警察に連行されていった。そんな彼の姿に、少年たちは失望の声をもらすのだった。



© 東映

### ◇駅 STATION (132分/1981年/日本/東宝)

\*エコーホール【11/26】12:55 【11/27】15:30

ゲスト:執筆家・谷 充代 ほか

#### ◇監督:降旗康男 脚本:倉本 聰

出演:高倉 健 倍賞千恵子 いしだあゆみ 大滝秀治 根津甚八 宇崎竜童 ほか

#### ◇「駅」で交差する男と女

刑事の11年を、その人生と交錯する女性たちを中心に描いたヒューマンドラマ。

オリンピックの射撃選手でもある刑事と3人の女性の宿命の出会いと別れを3部構成で描いた人間ドラマ。

1967年。警察官の英次は過酷な仕事とオリンピックの射撃選手として練習が続いたことが原因で妻・直子と離婚した……。1976年。オリンピック強化コーチのかたわら、連続通り魔を追う英次。犯人として浮かんだ吉松五郎を捕まえるため、妹のすず子の尾行を開始する……。1979年。故郷の雄冬に帰る英次だったが、連絡船が欠航となったため仕方なく居酒屋“桐子”に入る……。



© 1981 東宝

## ■ご当地 (ロケ) 映画 (2作品)

・北海道、網走のロケ作品を地元で鑑賞することで、映画と地域の関わりの素晴らしさに触れます！

### ◎愛を積むひと (125分/2015年/日本/アスミック・エース 松竹)

\*エコーホール【11/26】15:30 【11/27】12:55

#### ◎監督:朝原雄三

出演:佐藤浩市 樋口可南子 北川景子 野村周平 杉咲 花 森崎博之 佐井戸けん太 ほか

◎佐藤浩市と樋口可南子が夫婦役を演じ、北海道で第2の人生を送る熟年夫婦の愛と絆を描いたヒューマンドラマ。

ワード・ムーニー・Jr.の小説「石を積むひと」を原作に、「武士の献立」「釣りバカ日誌」シリーズの朝原雄三監督がメガホンをとった。

東京の下町で営んでいた工場をたたみ、豊かな老後を求めて北海道に移住してきた篤史と良子。しかし、ガーデンングや内装アレンジなど充実した毎日を楽しむ良子に対し、仕事一筋だった篤史は暇を持て余すばかりで、そんな夫を見かねた良子は、篤史に家の周りの石塚づくりを頼む。ところが、良子の持病である心臓病が悪化し、篤史の願いもむなしく亡くなってしまふ。妻の死に絶望し、心を閉ざした篤史だったが、彼女が死の直前につづった自分宛の手紙を読んだことをきっかけに、周囲の人々や疎遠だった娘との関わりを取り戻していく……。



© 2015「愛を積むひと」製作委員会